

日本における外語教育の意味を 再考する ーZ世代の特性を視野に入れつつー

2022年3月24日

慶應義塾大学経済学部

境一三 最終講義

目次

- なぜ外語教育？
- 日本における外語教育の時代区分
- 実質的移民国家としての日本
- 多様性と複言語主義：単言語主義の乗り越え
- 能力としての複言語主義と価値としての複言語主義
- 英語とそれ以外の言語の学習
- 複言語能力を高める（実践例）
- 機械翻訳の可能性

はじめにおことわり： なぜ「外語」を使うか

- 言語は国家の枠組みと一致しない。
- わたしにとって、アイヌ語や琉球諸語は外国語ではないが、外語である。
- ここでは、外語＝異言語として用いる。

-今日の話の前提-

Z世代（とその後の世代）の特徴

- 現在の小学生から20代の若者
- Digital native: Digitalな環境が virtual ではなく、すでに real な世代
- テレビではなく、YouTube を見ることが日常→個別化と分断
- 友だちとの関係を強く求めるが、その範囲は小さくまとまったもの→digital な関係構築と「いじめ」
- 未知の他者に十分に視野が開かれていない
 - →他者に自分を開き、より柔軟に他者との関係構築をする契機となる教育が必要
- SDGs や人権の教育を受けている



當作靖彦先生の講演から

3月13日JACTFL第10会記念シンポジウム基調講演「魅力的な外国語教育とは？-外国語を教えない外国語教育-」

「なぜ」外語教育を行うのか？

「国際平和を達成する外国語教育」

言語教育の目的：機能的目的＜教育的目的

「地球市民育成の言語教育」

私の「なぜ？」と答え

- 「問い」なぜ外語教育を行うのか？
- 「答え」平和構築のため
- 国内に目を向ければ：日本社会の構成員の言語・文化的多様性を尊重し、共生することを可能にするため

「今ウクライナとロシアが戦争しているけど、お互いの文化を
「これすごいね！」とか分かりあえれば、きっとまた平和な世界
にすることができると思う。外国のことについて学んだから、ま
た新しい文化や暮らし方が分かった。これからも「自分の考えが
正しい」と思うのではなくて「他にもいろいろな考え方があるの
だな」と分かっていた方がいいと思う。（中略）だからこれから
も他の国について知っていくことが必要だと思った」

（守口市立さつき学園義務教育学校6年生：北野ゆき先生担当）

日本における外語教育の時代区分

日本における 外語教育の時代区分 (試案)

受容期

- 古代から1980年代
- 中国の文化受容：漢学
- 欧米文化の受容：蘭学と英学（江戸後期以降）
- 欧米文化の受容：英学とその他（独仏露など）（明治期以降）

発信期

- 1980年代以降

共存期

- 2000年代以降

日本における外語教育の時代区分 (試案)

受容期 C 発信期 C 共存期

受容期

- 福澤諭吉（1835-1901）
- 漢学の基礎の上に蘭学を学ぶ
→ 英学
- 「一ト通り漢学者の前座ぐらいになっていた」
- 複言語能力
- 慶應義塾（1858-）
- 哲学、政治思想、経済学
- 翻訳と翻案による訳語の普及



受容期

- 近藤真琴（1831-1886）
- 国学・漢学の基礎の上に蘭学を学ぶ→英学
- 複言語能力
- 攻玉社（1863-）
- 数学、測量術、航海術
- 「ことばのその」（1884-85）
- 「ちしつがくうひまなび」（1886）



福沢 西翁学塾跡 近藤

この地は一八六八年から一八七一年まで慶應義塾の在った処である。福沢諭吉は幕政批判の在った家塾をここに移し、新たに塾舎を建て時の年号に因んでこれを慶應義塾と稱した。あたかも明治維新の変転に際し國中また文事を顧みる者のなかつた時、この塾に集まつた福沢以下の少壮学徒は、自から信する文明の主義、據つて學問の独立を期し、わが国文運の命脈を一日も絶やすまいとかなかつた。

一八七一年慶應義塾跡を譲り受けた政工社が、築地一橋頭から起して来、一九二五年西大崎に移るまでこの地で学校を経営した。創立者近藤嘉平は和漢洋才、實業剛健、礼儀を重んじ誠意を旨とするを理想とし、中壮年部では英漢教の二科を主とし、海軍兵學校入學者、志願者を養成、又他府上級學校進學者受者の爲に歴史、地理、物理、化学等の諸科をも教授、後之を中学校に改め、更に一八七九年創設した陸地測量習練所は陸軍地學土木科、工學校及び高等工學校と改稱し土木工學の基を固めた。この外幼年部、女子部、商船、専修教養科も或る期間設けられていた。

発信期

- 鈴木孝夫：英独仏語では、日本の利益のために発信できる力をつけなければならない cf. 鈴木（1985）『武器としてのことば』、鈴木（1999）『日本人はなぜ英語ができないか』
- 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）の開設（1990年）と自然言語＋コンピューター言語教育：発信のための外語教育
- 鈴木孝夫の基本的な理念を関口一郎（独）が中心に実現

共存期

- 外国人労働者の増加と近年のインバウンド需要
- 先進文物の移入＋（日本の利益のための）情報発信のための
大言語の学習→異文化間コミュニケーション学習への移行（言語・文化相対性への移行）

實質的 移民國家日本

流入外国人（OECD+ロシア）

Inflows of foreign population into selected OECD countries and Russia											
Thousands											
	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
Germany	573.8	606.3	683.5	841.7	965.9	1 108.1	1 342.5	2 016.2	1 719.1	1 384.0	1 383.6
United States	1 107.1	1 130.8	1 042.6	1 062.0	1 031.6	990.6	1 016.5	1 051.0	1 183.5	1 127.2	1 096.6
Spain	567.4	365.4	330.3	335.9	272.5	248.4	264.5	290.0	352.2	454.4	560.0
Japan	344.5	297.1	287.1	266.9	303.9	306.7	336.5	391.2	427.6	475.0	519.7
Korea	302.2	232.8	293.1	307.2	300.2	360.5	407.1	372.9	402.2	452.7	495.1
Turkey	157.3	132.4	29.9	142.5	143.8	155.4	152.1	150.4	273.9	364.6	466.9
United Kingdom	456.0	430.0	459.0	453.0	383.0	406.0	504.0	481.0	455.0	520.0	466.9
Russia	281.6	279.9	187.8	214.9	290.6	350.7	443.1	425.0	388.6	393.1	365.0
Chile	43.6	35.9	41.4	50.7	65.2	84.4	83.5	101.9	135.5	207.2	339.4
Canada	247.2	252.2	280.7	248.7	257.8	259.0	260.3	271.8	296.4	286.5	321.0
Italy	496.5	406.7	424.5	354.3	321.3	279.0	248.4	250.5	262.9	301.1	285.5
France	147.0	149.6	145.8	142.1	151.6	251.3	251.8	242.7	245.7	245.9	248.9
Netherlands	103.4	104.4	110.2	118.5	115.7	122.3	139.3	159.5	182.2	183.9	191.0
Australia	203.9	219.4	202.2	206.4	236.0	244.8	233.9	223.7	218.5	224.2	186.6
Switzerland	157.3	132.4	134.2	142.5	143.8	155.4	152.1	150.4	143.1	137.8	140.1

流入外国人（OECD+ロシア）順位

Inflows of foreign population into selected OECD countries and Russia

Thousands

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
Germany	2	2	2	1	1	1	1	1	1
United States	1	1	1	2	2	2	2	2	2
Spain	5	5	8	10	7	7	7	5	3
Japan	7	7	5	6	6	5	4	4	4
Korea	6	6	6	4	5	6	5	6	5
United Kingdom	3	3	3	3	3	3	3	3	6
Turkey	23	12	13	13	14	15	9	8	7
Russia	10	9	7	5	4	4	6	7	8
Chile	20	20	20	18	19	19	17	13	9
Canada	8	8	9	8	8	8	8	10	10
Italy	4	4	4	7	10	9	10	9	11
France	11	13	11	9	9	10	11	11	12
Netherlands	14	14	16	15	15	13	13	14	13
Australia	9	10	10	11	11	11	12	12	14
Switzerland	12	11	12	12	13	14	15	16	15

日本の外国人労働者数

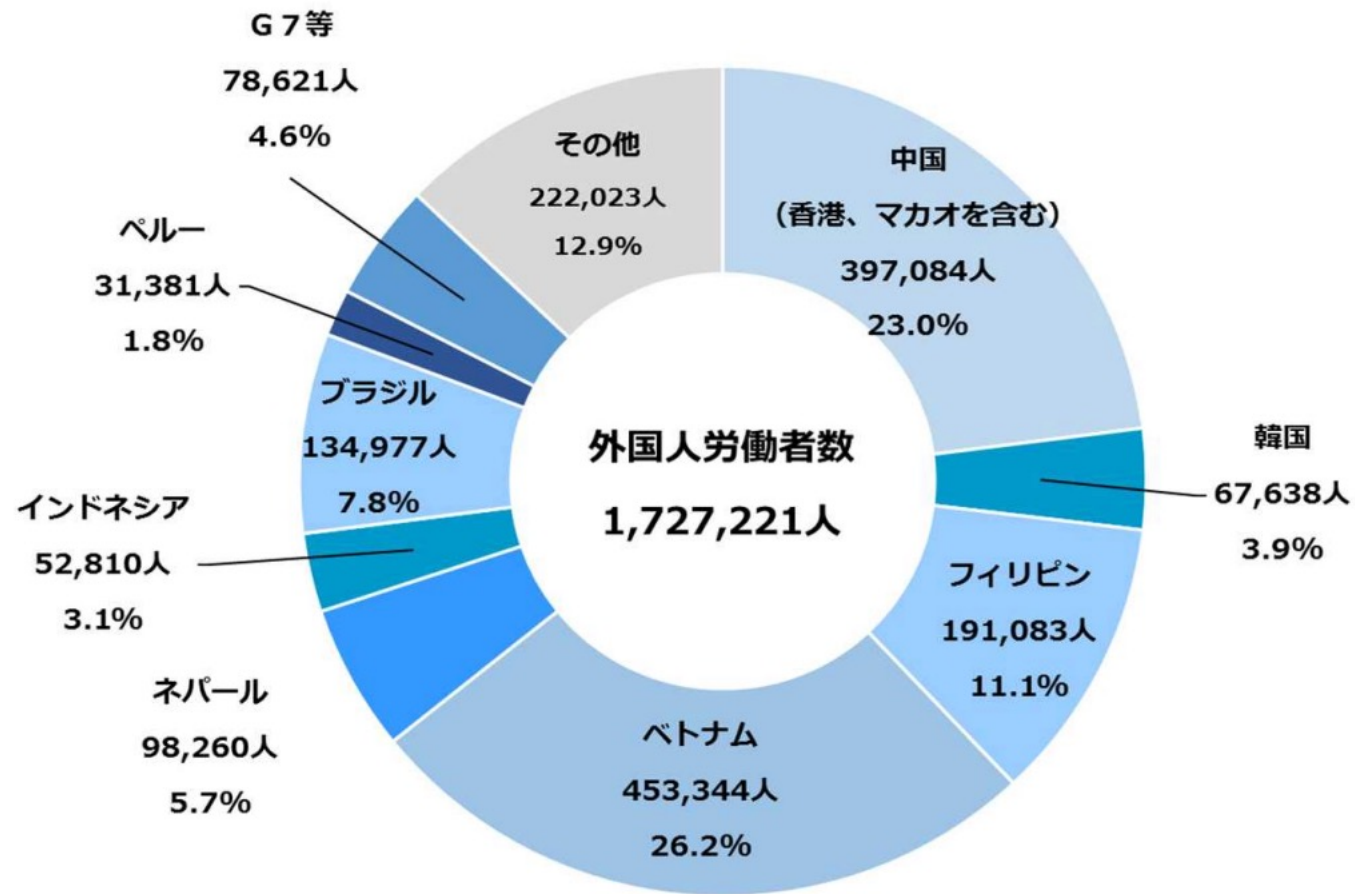
- 外国籍： 2,823,565人。人口の2%強（2021年6月、法務省）
- 外国人労働者： 1,727,221人
 - 高度外国人材： 22.8 %
 - 技能実習生： 20.4 %
 - 外国人学生アルバイト： 19.4 %

（厚労省 2021年）

<https://www.mhlw.go.jp/content/11655000/000887554.pdf>

2021年10月 現在での外国人労働者数

- 厚生労働省 2021
<https://www.mhlw.go.jp/content/11655000/000887554.pdf>



日本社会の多言語・多文化化

- どの町でも、コンビニやラーメン店には外国人が働いている。
- 工場地帯でも、農村部でも外国人の存在は欠かせない。
- 横浜市立飯田北いちょう小学校：「外国籍児童は、1989(平成元)年頃から増え始め、現在は86名が在籍しています。全校児童に占める外国籍児童の割合は約42%であり、外国にルーツをもつ児童を含めた割合は約54%になります。つまり、全校児童の半数が外国につながる児童（外国籍または外国にルーツを持つ児童）になります。」

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/iidakitaicho/information.html>

日本社会の多言語・多文化化

- 様々な言語・文化的バックグラウンドを持つ人々の労働市場への参入と、経済を支えるインバウンドは、日本社会の急速な多言語・多文化化を押し進めている。
- この現象は、日本社会の英語化ではなく、**日本社会は英語化していない。**
- にもかかわらず、初等中等教育では、実質的に**英語しか選択肢がない。**
- 外語＝英語という幻想を抱かせ、他の言語、他の文化圏へ目を覆う危険性をはらむ。

二重の単言語主義

- また、英語教育は日本語（国語）教育と分断されている。
- ⇒ Double Monolingualism 二重の単言語主義

多様性と複言語主義

多様性こそ現代のキーワード

- 日本の現状に即して、日本の中にある多言語・多文化に目を開く教育が必要
- 子ども一人一人が複言語・複文化能力を持つことが課題ではないか？
- では、二重の単言語主義（日本語＋英語）をどう乗り越えるか？
- 規範性の強い言語教育（知識・技能中心の教育）をどう乗り越えるか？

欧州評議会による複言語主義の考え方

- Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) 『ヨーロッパ言語共通参照枠』
- 複言語主義 (Plurilingualism) ⇔ 多言語主義 (Multilingualism)
- 多言語主義 (状態) : 一般的に社会の在り方
 - 特定の社会の中での異種の言語の併存

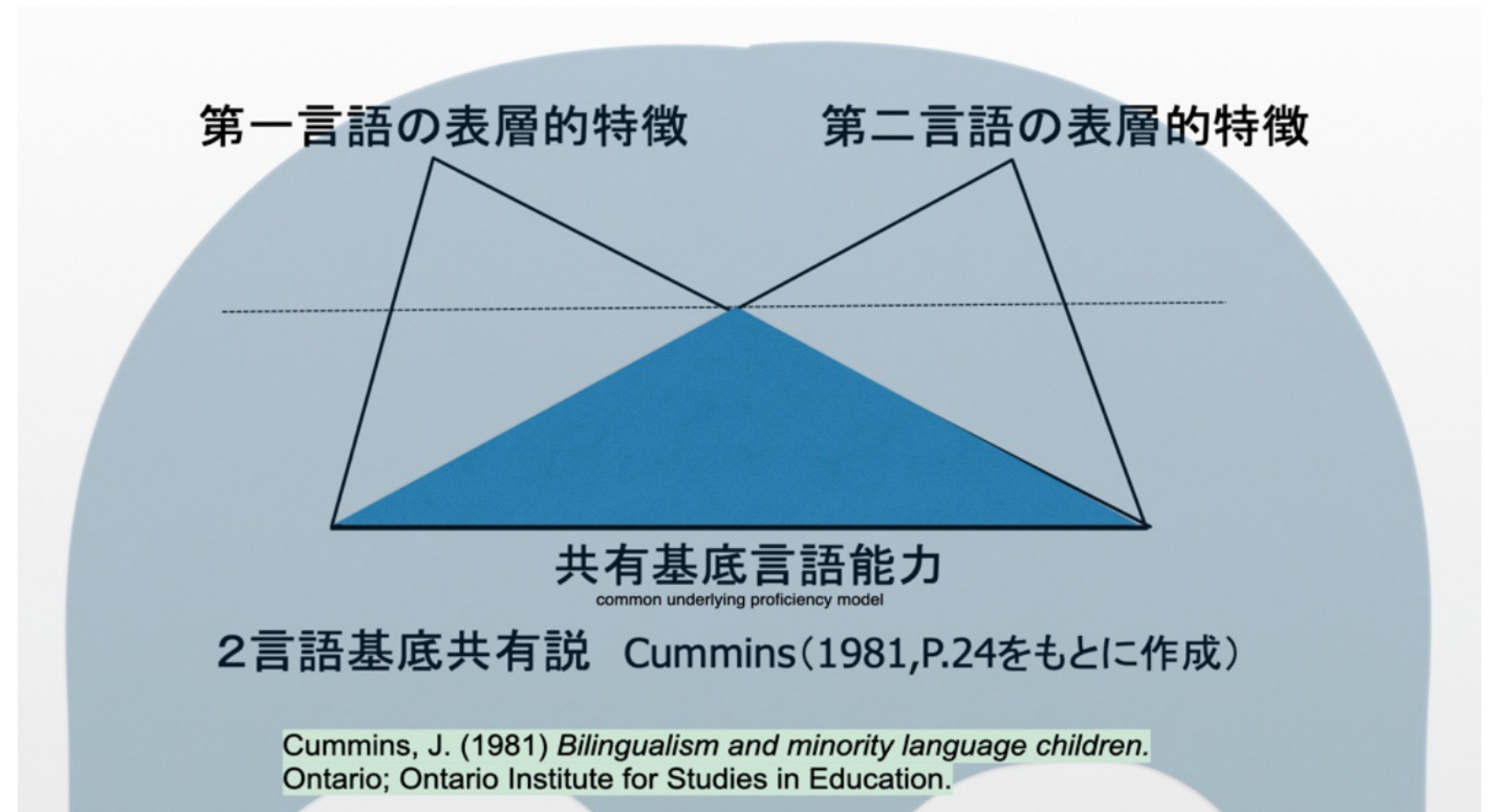
複言語主義（能力）

- 複言語主義（能力）：一般的に個人の在り方
 - 一人の人間の中に複数の言語が互いに関係を持ちながら存在し、（学校の枠を超えた）社会の中で適宜複数の言語を使用すること
 - 一人の中に複数の言語があっても、それが（複数言語の知識として）バラバラに存在するのであれば、複言語とは言えない。
 - 方言や身振り・手振りも含めて、個人が状況に応じて言語をやりくりしてコミュニケーション目的を達成

共有言語基底能力

- 吉村雅仁

https://www.nara-edu.ac.jp/nakkyon_knowledge/blog/2021/12/----.html



複言語能力のイメージ

単言語主義による教育

- 単言語主義に立つと、日本語は日本語、英語は英語、X語はX語
…としてのみ学ばれる。
- それで良いのか？

単言語主義を
どう乗り越えるか？

複言語主義の 二つの在り方

能力としての
複言語主義

価値としての
複言語主義

能力としての複言語主義

- すべての話者に内在する、単独でないし教育活動によって導かれて **2 つ以上の言語を用いたり、
学んだりする能力** （欧州評議会言語政策局
2016：18-19）

Cf. 山本・大山（2016:78）「もっと貪欲に、いろんな言語に興味を持ちたい、知りたい、習得したい—単一言語主義の強い場で、実践により複言語教育の価値を問う— 『複言語・多言語教育研究』 No.6

価値 としての複言語主義

- 言語に対する寛容性を養い、その多様性を積極的に容認する基礎となる。複言語の話者が自らのその能力を意識することは、自分自身あるいは他者が使用する言語変種がそれぞれ同等の価値を持つことへの同意に結びついていく（欧州評議会言語政策局 2016：19）

Cf. 山本・大山（2016:78）

日本の現状に即して考えると

- 初等中等教育：価値としての複言語主義により重点を置く
- 第二外国語教育：価値としての複言語主義により重点を置く
- 専門教育：能力＋価値としての複言語主義
 - 言語・文化・社会の専門領域

価値としての複言語教育： ヘイトに対する抵抗力、寛容性を養う

- 言語学習によって、**寛容性を養う**。
- 自分がエトランジェ（異人）であることを体験する。
 - 世界語である英語では、「皆が英語人」となり、均質化が進む。
foreign / fremd / étrangère の体験が薄くなる。
- **日本に暮らすエトランジェの日本語習得と日本での生活の困難さを理解する**。
- 互いにエトランジェである可能性を前提に、**共存するすべを学ぶ**。

単言語主義の乗り越えと 価値としての複言語主義の実現

- 日本と世界の言語の多様性と共通性に目を開く
- 英語万能の価値序列を距離を持って見る
- 中国語、スペイン語、フランス語などの大言語を距離を持って見る
- **すべての言語・文化は等価である。**
 - マイナー言語のドイツ語でも学ぶ価値があることを冷静に見る。

二重の単言語主義をどう乗り越えるか？

- 英語学習と日本語（国語）学習をつなげる
- 英語学習と第二外国語学習をつなげる
→ 英語と第二外国語の協働

英語と英語以外の言語の学習

私たちにとって英語を学ぶとは？

- 英語学習は外語学習の出発点
- 英語学習で、言語の見方・意識（Language Awareness）を身につけ、言語の学び方（学習方略・スキル）を学ぶ（Learn how to learn, Lernen lernen）
- 学習の初期から、英語を相対化する視点が重要（英語を絶対化しない、英語こそが「外国語」だと思わせない）
- 英語学習で日本語を相対的に見る目を養う

私たちにとって英語以外の言語を学ぶとは？

- 英語によって日本語を相対化するのと同様に、英語以外の言語（L3とする）学習によって英語を相対化する
- 「第二外国語」L3は「初習言語」ではない！
- 英語で養った言語観と学習方法をもってL3を始める
 - 音を捉える能力、談話構成把握能力、語彙力、文法把握能力などがL3に生きる
- 英語という巨人の肩に乗って始めるL3学習
- 英語学習との連続性の意識が重要

私たちにとって英語以外の言語を学ぶとは？

- ⇒と同時に、不幸にして英語学習がうまく行かなかった生徒・学生に新たなスタートの機会を与える
- L3学習に成功した（面白みを感じた）学習者は、往々にして英語学習をやり直す
 - 「どうしても英語が好きになれなくて全くできないのですが実は最近、中学英語の本を買って中1から勉強し直してます。」（社会人Aさん）

複言語能力を高めるには

複言語能力を高める学習

- 1) 複数の言語を同時に学び（触れて）比較をする：多元的アプローチ (Candelier, et al. 2012、大山・北野・濱田 2020)
 - Cf. 吉村雅仁の小学校における多言語教育とその教材
- 2) 似た言語（共通点を持つ）を比較しながら、芋づる式に学ぶ
 - 英語からフランス語
 - 英語からドイツ語
 - 日本語からコリア語
 - 日本語から中国語

多言語比較の教材例（吉村雅仁教授作成）

http://www.waseda.jp/prj-tagengo2013/blog/html/_downloads/4-l.pdf

月の名前（クイズ）

	日本語	韓国語	中国語	ベトナム語	フィリピン語	スペイン語	ポルトガル語	タイ語
1月	イチガツ	イルウォル	イーユエ	タンモツ	エネーロ	エネーロ	ジャネイロ	モッカラーコム
2月	ニガツ	イウォル	アーユエ	()	ペブレーロ	フェブレーロ	フェヴェレイロ	クムパーパン
3月	サンガツ	サムウォル	サンユエ	タンパー	マルソ	マルソ	マルソ	ミーナーコム
4月	シガツ	サーウォル	スーユエ	タントウー	アブリール	アブリール	アブリウ	メーサーヨン
5月	ゴガツ	オーウォル	ウーユエ	タンナム	マーヨ	マーヨ	マイオ	プッサバーコム
6月	ロクガツ	ユーウォル	リョウユエ	タンサウ	フーニオ	フーニオ	ジューニョ	ミトゥナーヨン
7月	シチガツ	チルウォル	チーユエ	タンパーイ	フーリオ	フーリオ	()	ガラッガダーコム
8月	ハチガツ	パロル	バーユエ	タンタム	アゴースト	アゴースト	アゴースト	スインハーコム
9月	クガツ	クーウォル	ジョウユエ	タンチン	セテエンブレ	セプティエンブレ	セテエンプロ	ガンヤーヨン
10月	ジュウガツ	シウォル	シーユエ	()	オクトゥブレ	()	オトゥープロ	トゥラーコム
11月	ジュウイチガツ	シピロル	()	タンムオイモツ	ノビエンブレ	ノビエンブレ	()	プルッサチカーヨン
12月	ジュウニガツ	シビウォル	シーアーユエ	タンムオイハイ	ディシエンブレ	ディセンブレ	デゼンプロ	タンワーコム

同時複数言語教育の例（高等教育）

- 大阪大学などにおける「多言語演習」
 - 岩居弘樹 ・ 田川千尋 ・ 神田麻衣子 （2017）「ネイティブスピーカーとデジタルデバイスを活用した多言語演習の取り組み」『日本デジタル教育学会発表予稿集』6(0), pp.71-72.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsdtp/6/0/6_71/_pdf/-char/ja
 - 「多言語演習Ⅰ」ではⅠセメスター15回の授業でトルコ語、ベトナム語、インドネシア語を学習する。学習者は3グループに分かれ、それぞれの言語を母語とする留学生に手伝ってもらいながら学習を進める。ひとつの教室で3言語の学習が同時に行われ、各言語を5週ずつ順に学習する。」
 - 岩居弘樹（2020）「医療系大学での「複言語学習のすすめ」の試み—対面授業とオンライン授業の実践報告と学生の声—」『複言語・多言語教育研究』第8号

複言語能力を高める学習

- 2) 似た言語（共通点を持つ）を比較しながら、芋づる式に学ぶ
 - 英語からフランス語（語彙の共通性を強く意識する）
 - 英語からドイツ語（文法の共通性と、英語における簡略化を意識する：西ゲルマン語教育という視点で授業を行う）
- 教員も、一歩引いた目で自分が教える言語を見る癖をつける：ゲルマン語教育、ロマンス語教育、スラブ語教育といった視点を持つ
 - 延いては、印欧語教育という所まで引いて見る

複言語能力を高める学習

- 共時的側面ばかりでなく、通時的側面も適宜取り入れ、目標言語を立体的に見えるようにする
- ⇒ 言語を見る目を育てる Language Awareness
- ⇒ 言語を学ぶ力を育てる Learning Awareness
- 教育機関における外語教育の目的：究極的には、自分なりの世界観・言語観を持ち、いつでもどの言語でも自ら学ぶことのできる力を持った自律的言語学習者を育てること

価値としての複言語教育 実践例

価値としての複言語教育の実践例（高等教育）

- 山口大学国際総合科学部「言語学習の理論と実践Ⅰ」
 - 1 週前半～2週 第一部：言語学習／教育／習得に賭けられているものとは？
 - 3～4 週前半 第二部：言語多様性の促進と管理
 - 4 週後半～7 週 第三部：自律的な言語習得のための方略

Cf. 山本冴里（2017:89）「山口大学国際総合科学部「言語学習の理論と実践Ⅰ」の背景と構成—「価値として、また能力としての複言語主義」促進を念頭に—」『複言語・多言語教育研究』 No.5

価値としての複言語教育の実践例（高等教育）

- 慶應義塾大学、境担当「自由研究セミナー」における英語史を出発点に、ヨーロッパの複数言語に触れるプロジェクト

ポケットークW



機械翻訳を用いた複言語教育の実践例 (小学校)

- ポケトークを使用した例：Y小学校の第6学年の2学級の児童63名が、修学旅行の2日目に、訪問先の日光東照宮にて、観光客（外国人を含む）を対象に、「想像の象」、「眠り猫」、「陽明門」、「本殿」のいずれかについて解説する実践を行った。
 - 外国人の優しさや暖かさを感じられた。
 - 伝えたいことが伝えられ、外国人と交流できて良かった。
 - 最初の方は自分たちで話し、難しい言葉はポケトークで話すことができた。
- (成田潤也 (2022). 56-69.)

機械翻訳を用いた複言語教育の実践例 (小学校)

- ポケトークを使用した例：ポケトークのようなツールがあれば、外国語の学習は必要ないか？
 - 必要。ポケトークでは変換されない言葉もあったから。
 - 必要。自分の言葉で伝えることで、相手に伝わることがあったり、相手の言っていることも、自分で理解することで、その感情が分かったりするから。
 - 必要ない。でも、簡単な言葉は話せた方が良い。
(一部、講演者による省略あり。)

機械翻訳を用いた複言語教育の実践例 (小学校)

- 従来の「まず外国語学習を行い、その成果として当該言語話者との交流活動が実現する」という学習プロセスではなく、「学習前または初期の段階で機械翻訳を活用した外国語話者との交流活動を行い、動機づけを高めつつ当該言語の学習を進める」という、従来の発想とは異なる学習プロセスが成立する可能性が伺える。成田（2022： 67）

言語学習の現実

- 日本で使われているすべての言語を学ぶことはできない。（岩居の実践例のように、いくつかを同時に学ぶことは可能。）
- 英語＋１言語の学習を、言語・文化の複数性を身を以て知るためのスタート台とする。
- 複数の言語に触れ、その実態から、そこに共通するもの、「**言語とは何か**」を考え、**自分なりの把握**をする。
 - Language Awareness の涵養

一人の教員ができることは限界がある

- 普段の授業の中で何ができるか？
- 自分の授業の中で、他言語（多言語）とのつながりをつける
- X語の授業を通して、他言語との異同を学習者に意識させる
 - ⇒X語の学習が**広がり**を得る
- ⇒X語の学習を通して、言語というものを見る目を育てる：言語そのものを学ぶ
 - ⇒X語の学習が**深み**を得る

境が普段の授業で実践していること

例Ⅰ 音の対応関係

- 英 water : 独 Wasser /t/ : /s/
- 英 bath : 独 Bad /th/ : /d/
- 英 that : 独 das

例 2 定冠詞の対応関係

- 英 the : 蘭 de : 独 de(r) ← bath : Bad

例 3 屈折語の語尾

- 英 book^s (<book)
- 独 Büch^{er} (<Buch)

- 英 Uncle Tom' ^s Cabin
- 独 Onkel Tom^s Hütte

- 英 He drink^s beer.
- 独 Er trink^t Bier.

例4 变音

- 英 foot : feet
- 独 Fuß : Füße

- 英 tooth : teeth
- 独 Zahn : Zähne

- 英 drive : drove
- 独 treiben : trieb

例 5 現在完了

- have (be) と過去分詞の組み合わせ
- 学生への問いかけ：「なぜ I have... / Ich habe... (私は今持っている) なの？」cf. 朝尾 (2022) I have a letter written. (私には手紙は書かれた状態にある)
- 過去分詞はなぜ受身でも使うのか？ 過去分詞の意味を考えさせる。
- ヨーロッパ現代諸語の現在完了形（「複合過去」などのタームの違いはあれど）の共通点と相違点を観察する
- 大谷選手のホームランで聞く “It’s gone!” とはどういう意味なのか？ cf. The sun is gone. → 太阳不见了。

学生の反応「学びを学ぶ」 ことについて

- (...)ドイツ語特有の難しい文法をただ文法として習うのではなく、実際の生きた会話や文章の中でその意味・特徴を見つけ気づき、それを構成する単語の本質から真に文法構造を理解するなど（現在完了形など）、本来あるべき/勧められる学び方かもしれませんが、なかなか今までできなかった学び方までも学びながら、ドイツ語を学ぶことができました。

まとめと展望

- SNSの発達と、趣味・関心によってセグメント化し、分断されるZ世代の人びとをつなぎ、目を外に向け、世界とつなげる教育が必要であろう。外語教育はそのために働く必要がある。
- テクノロジーの発達は、学習に有効なアプリをさまざまに提供しているが、その最大のものは機械翻訳であろう。機械翻訳によって「まず行動する」、そしてそれによって喚起された学習動機を受けて外語学習・教育を展開するという新しい道が拓かれたと言えるのではないか。
- （今日は話さなかったが）機械翻訳を使いながら、L1、L2双方に対する言語意識の高まりが期待される。cf. 境（2021）

参考文献

- Candelier, M., et al. (2012). Le CARAP: Competences et ressources. Strasbourg, France: Council of Europe.
- 朝尾幸次郎. (2022). 歴史から問い直す学習英文法. 言語教師教育, 9(1), 1-19.
- 岩居弘樹. (2020). 医療系大学での「複言語学習のすすめ」の試み—対面授業とオンライン授業の実践報告と学生の声—. 複言語・多言語教育研究, 8.
- 岩居弘樹, 田川千尋, & 神田麻衣子. (2017). ネイティブスピーカーとデジタルデバイスを活用した多言語演習の取り組み. 日本デジタル教科書学会年次大会発表原稿集, 6.
- 欧州評議会. 吉島茂他訳. (2014). 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠 (追補版). 朝日出版社.
- 欧州評議会言語政策局, 山本冴里訳 (2016). 言語の多様性から複言語教育へ: ヨーロッパ言語教育政策策定ガイド. くろしお出版.
- 大山 万容, 北野 ゆき, 濱田 隆史. (2020). 「コトバハカセ」を用いた小学校外国語教育での複言語教育. 複言語・多言語教育研究, 8.
- 境一三. (2021). やさしい日本語と機械翻訳による言語意識の向上について. ドイツ文学, 147-160.
- 成田潤也. (2022). 機械翻訳活用による小学校外国語教育と国語教育の連携. 言語教師教育, 9(1), 56-69.
- 山本冴里. (2017). 山口大学国際総合科学部「言語学習の理論と実践 I」の背景と構成: 「価値として、また能力としての複言語主義」促進を念頭に. 複言語・多言語教育研究, 5.
- 山本冴里, & 大山万容. (2018). もっと貪欲に、いろんな言語に興味を持ちたい、知りたい、習得したい: 単一言語主義の強い場で、実践により複言語教育の価値を問う. 複言語・多言語教育研究, 6.

Iyairaikere!

ありがとうございました。

- De gra!
- Terima kasih!
- 謝謝！
- 감사합니다!
- С п а с и б о !
- Gracias!
- Grazie!
- Merci!

- Dank u wel!
- Tack!
- דאַנקען דיך •
- Dankon!
- Hvala ti!
- Σας ευχαριστώ!
- Mèsi!
- Iyairaikere!
- Danke schön!